

第57回日本PTA関東ブロック研究大会 ながの大会

2025年10月18日／19日

参加者報告書



栃木県PTA連合会



令和7年度の日本PTA関東ブロック研究大会は、「『結』笑顔で未来をつくる」～子どもと一緒にウェルビーイングの実現を信州から～をテーマに、長野県内の長野市・佐久市・上田市・塩尻市・諏訪市において開催されました。

第1日目は、各市で7つの分科会が開かれ、研究発表と講演が行われました。第2分科会においては、本会の事業「研究PTA」の研究の成果を栃木市PTA連合会様に発表いただきました。

第2日目は、長野市のホクト文化ホールにおいて全体会が開かれ、本大会の目玉の一つ特別企画のジュニアサミットに係る「子どもたちと地域のウェルビーイングの実現に向けて」をテーマに中学生3名を含めたパネリストが登壇しパネルディスカッションが行われました。子どもたち考えや発言力に感動しました。本県からは27名が参加いたしました。

会員の皆様と大会の様子を共有するために、参加した皆さんに報告書を作成いただきました。ぜひ、ご覧になってください。

栃木県PTA連合会 会長 福田治久

1日目 分科会	令和7年10月18日（土）13時より 長野県内4地区7会場		12:30	13:00	16:30
			開場・受付		分科会
	第1分科会	地域連携	長野市	②	長野市立城山小学校
	第2分科会	家庭教育（健康・食育）	長野市	①	ホクト文化ホール
	第3分科会	人権教育	佐久市	③	佐久平交流センターホール
	第4分科会	組織・運営	上田市	④	上田市立第二中学校
	第5分科会	学校教育・地域連携	塩尻市	⑤	塩尻総合文化センター
	第6分科会	広報活動・IT	諏訪市	⑥	諏訪市駅前交流テラス すわっチャオ
2日目 全体会	令和7年10月19日（日）9時より ホクト文化ホール 大ホール		①		
	全体会		長野市		
			8:30	9:00	12:55
		開場・受付		全体会	



ながの大会の詳細及び全体会動画等については、
以下のURLからご覧いただけます。

<https://pta-naganoken.net/nagano-conference/>

目 次

ながの大会 概要	1
1 全体会	2
2 第1分科会 地域連携	5
3 第2分科会 家庭教育	9
4 第4分科会 組織・運営	20
5 第7分科会 部活動の地域移行	22
※ 第2分科会の発表 栃木市PTA連合会	23
ながの大会 写真	24

ながの大会 概要



◆大会スローガン

「結(ゆい)」笑顔で未来をつくる
～子どもと一緒にウェルビーイングの実現を信州から～

◆結（ゆい）とは

人々が助け合い、協力して物事を成し遂げることを指します。PTA（保護者と先生）が子どもたちのために、人と人のつながりを大切にして、互いに支え合うことで、より強い力が発揮できます。「結（ゆい）の精神」こそ次世代教育の核となり得る価値観であると、スローガンに想いを込めました。

◆ウェルビーイング（Well-being）とは

簡単に言えば「心も体も、社会的にも満たされた幸せな状態」のことを指します。単なる「健康」や「幸せ」とは少し違い、より包括的で持続的な満足感や生きがいを重視する概念です。

◆メインテーマ / シンボルマーク

こどもまんなか ワクワクするPTA活動


- 子どもたちの学校運営・まちづくりへの参画の伴走支援
- 本気で子どもたちに関わる「素敵な大人」の創造
- 未来を見据えた持続可能なPTA組織への進化
- 子どもたちの教育の充実と自己肯定感の向上の追求
- 学校・地域・家庭・企業・関係諸団体との協働の推進



子どもが真ん中で「保護者」と「教職員」が手を結び、人とひとの結びつきと、県内4地区を信州の名産品の水引で表現しています。

長野県PTA連合会ホームページより

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会 (宇都宮市PTA連合会)	役 職	副会長
氏 名	Y. K		
分 科 会 名	全体会		
テ ー マ			
内 容			
感 想	<p>一堂に会する全体会。栃木県からは30名近いメンバーで参加しました。長野県副知事をはじめ多くのご来賓をお迎えしての開会式。</p> <p>研究発表では「居心地の良い」PTA活動の条件をテーマに長野市立山王小学校の添谷芳久氏より発表がありました。</p> <p>「ウェルビーイングジュニアサミット」を県内外の中学校で実施し、参加した代表3校の生徒会役員が登壇し、堂々とした意見交換がされました。「子どもたちと地域のウェルビーイングの実現に向けて」とし、PTAがどれだけ児童生徒を理解しているか?と問題提起。登壇した3名の生徒や武田教育長から非常に感慨深い話を聞くことができました。</p> <p>基調講演として、放送作家 野々村友紀子氏が登場しました。「強く生きるためのヒント」と題して日々の生活や子育てに役立つヒントを明るく楽しくお話いただきました。</p> <p>今回のながの大会は、児童生徒の活躍の場を設定して、参加者が児童生徒とも関わりを持つという、新しい試みがありました。参加者もたくさんの刺激を受けた大会でした。</p> <p>最後は関東ブロックの各協議会で会長としてご尽力された方への感謝状贈呈式が行われ、昨年までの本会の会長を務められた揚石哲司氏が代表で感謝状を受け取りました。ながの大会では、有意義な時間を共有できた機会に感謝申し上げます。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	さくら市PTA協議会	役 職	会長
氏 名	H. T		
分 科 会 名	全体会		
テ ー マ	「結(ゆい)」笑顔で未来をつくる ～子どもと一緒にウェルビーイングの実現を信州から～		
内 容	<p>全体会</p> <p>① 開会式 セレモニー：長野市立昭和小学校金管バンド</p> <p>② 研究発表 長野市立山王小学校PTA</p> <p>③ パネルディスカッション パネリスト：長野県教育長、長野県PTA連合会長、ジュニアサミット参加中学生</p> <p>④ 講演 放送作家 野々村 友紀子 氏</p>		
感 想	<p>全体会</p> <p>① 感謝の気持ちを伝える取り組みの事例が紹介された。 良い行いに対する感謝の気持ちを匿名で付箋に書き、掲示している模造紙に貼っていく、というもの。その中学校では「ありがとう掲示板」と呼んでおり、生徒が生徒・先生に対して言いにくい感謝の気持ちを表現させる。</p> <p>② 生徒からの質問に回答する取り組みの事例が紹介された。 アプリを用いた質問箱を用意し、良いものは生徒会が企画立案し、多くの生徒が疑問に思いそうなことはラジオ放送（詳細不明）するというもの。 さくら市で取り入れる場合には、疑問に思うことについて給食の時間に校内で方法して全校生徒（児童）に共有することを提案する。</p> <p>③ 講演「強く生きるためのヒント」について考えさせられたこと 児童・生徒に対して 褒めることによって、自己肯定感を高める。上手に出来た時に褒めると効果的。 手出しをしないで見守ることによって、考えさせる機会を与える。 「あなたなら出来る」と言うことにより、自信を植え付ける。 配偶者・パートナーに対して 「喧嘩は、買ったらダメ、勝ったらダメ」 ※ 喧嘩を買ってしまったら、亀裂が強く生じてしまう。勝ってしまったら相手が委縮してしまい、コミュニケーションに支障をきたす。 「母はハハハ、家庭の太陽」 ※ 母親が明るく振る舞うことで、家庭が明るくなる。父親が明るく振る舞うことで家庭が明るくなれば、母親に限らなくても良い。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会 (下野市PTA連絡協議会)	役 職	監事 (祇園小副会長)
氏 名	Y. H		
分 科 会 名	全体会		
テ ー マ	「結(ゆい)」笑顔で未来をつくる ～子どもと一緒にウェルビーイングの実現を信州から～		
内 容	(1) 開会式 (2) 研究発表 長野市立山王小学校PTA (3) パネルディスカッション (4) 講演 放送作家 野々村 友紀子 氏		
感 想	<p>2日目は全体会があり、テーマのそれぞれがとても興味深かった。</p> <p>一番最初の研究発表、「居心地よい」PTA活動の条件、内容をいろいろ話されていましたが、会長本人が一番楽しんでいたのではないかとにかくくらいにPTA活動を楽しそうにお話されたことがとても印象的でした。わたしも自分の学校の仲間と楽しい活動をしていきたいなと改めて感じさせられました。</p> <p>2番目の企画として子ども達と一緒に行われたパネルディスカッション、3校の生徒会長か副会長が参加していたが、それぞれの学校のスローガンを話してくれた時に、こんなに自分の学生の時にはいろんなことを考えていたかな？とみんなとても立派に感じましたし、この先の未来はあかるいのではないかなと思わされるように、みんなきちんとした意見を持ち、堂々と話されていました。とてもかっこよかったです。</p> <p>3番目の企画は、野々村友紀子さんの講演で「強く生きるためのヒント」をテーマに、わかりやすく楽しく講演会をしていただいたことがとても印象的でした。</p> <p>全体を通して、娘に何か一つでも響くものがあるといいなと思いますが、長年やってきたPTA活動に娘と一緒に参加できたことととてもありがたい、楽しい研究大会となりました。感謝！！</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	真岡市PTA連絡協議会 (真岡市立久下田中学校)	役職	PTA会長
氏 名	H. O		
分 科 会 名	第1分科会 地域連携		
テ ー マ	結 地域の特徴を生かし、学校・保護者・地域が一体となって 子どもたちを育む持続可能な学びの場を		
内 容	<p><一日目>善光寺クイズラリー・歓迎アトラクションとして善光寺木遣り保存会、城山小木遣りクラブの皆様の木遣り・城山小学校の児童と共にポスターセッション・茨城県高萩市立秋山小PTAによる発表「みんなで繋ぐSMILE RING」・長野県飯綱町立牟礼小PTAによる発表「PTAの学習活動支援」、長野県教育委員会信州型コミュニティスクールアドバイザー伴美佐子氏による講演</p> <p><二日目>研究発表校 長野市立山王小PTA添谷芳久会長による発表「居心地のよいPTA活動の条件」</p>		
感 想	<p>善光寺クイズラリーはLINEにて三択で進めてゆくかたちで楽しく学ぶことが出来た。冒頭の木遣りは迫力がありカッコよかった。</p> <p>第1分科会は城山小の6年生がひとつのグループに一人参加し作成したポスターについて説明。その後感想やアドバイス・質問等の時間があり児童の話の聞くことができた。他の児童のポスターも見ることができ交流できた。</p> <p>研究発表では各PTAの情熱が感じられた。講演の中のクロスロードというカード型のゲームではグループの中で意見交換ができ他県の方々とお話ができ有意義だった。</p> <p>二日目の研究発表をした添谷会長は中学校のクラスメイトで、今回の長野大会がきっかけとなり再開が叶ったので長野大会のタイトル「結」が実現した大会となった。会場にて販売があった長野土産コーナーも充実していて良かった。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	さくら市PTA協議会	役 職	会 長
氏 名	H. T		
分 科 会 名	第1分科会 地域連携		
テ ー マ	地域の特性を生かし、学校・保護者・地域が一体となって 子どもたちを育む持続可能な学びの場を		
内 容	<p>第1分科会</p> <p>① 開会式 セレモニー：善光寺木遣り保存会・城山小木遣りクラブによる木遣り披露</p> <p>② 児童発表・グループ討議 児童が望む未来の城山小学校・地域について児童発表・グループ討議</p> <p>③ 研究発表 秋山コミュニティスクール（茨城県高萩市） 長野県上水内郡飯綱町立牟礼小学校PTA</p> <p>④ パネルディスカッション パネリスト：長野県CSアドバイザー、城山小学校教諭、牟礼小学校PTA会長</p>		
感 想	<p>第1分科会</p> <p>① 学校運営協議会に中学生が参画している事例が紹介された。 学校運営協議会に生徒も参加することにより、生徒会が抱える課題に対してPTA・地域よりアドバイスを受け、一緒に解決を目指す取り組みとしては有効であると感じた。</p> <p>② 親子野外宿泊会を実施している事例が紹介された。 新型コロナ発生前は段ボールで小屋を作って宿泊する「ダンボールハウス宿泊会」として実施していたが、新型コロナによる活動自粛解禁後に再開した。地元テレビ局により防災教育の一環として取り組みが報道された。</p> <p>③ 広報紙を合同で作成している事例が紹介された。 コミュニティスクールとPTAがそれぞれ広報紙を作成していたが、同様の活動もあることから合同で作成して効率化を図ることとした。</p> <p>④ 「幸せな学校とは？」について意見交換があった。 「先生方が笑顔である学校は、児童・生徒にとって幸せな学校なのではないか。」という意見があった。先生方が笑顔であることは、児童・生徒にとって嬉しく感じられると思われ、児童・生徒がウェルビーイングな状態にあると考える。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会 (高根沢町PTA連絡協議会)	役職	情報発信委員会副委員長
氏 名	K. W		
分 科 会 名	第1分科会 地域連携		
テ ー マ	地域の特性を生かし、学校・保護者・地域が一体となって 子どもたちを育む持続可能な学びの場を		
内 容	<p>1.ポスターセッション 『城山小学校6年生』</p> <p>2.講演 みんなで繋ぐSMILE RING 『茨城県高萩市 秋山コミュニティースクール』</p> <p>・親子野外宿泊会「夏休みダンボールハウス宿泊会」</p> <p>・ドラム缶風呂 夜の教室で肝試し ヤマメの掴み取り</p> <p>3.牟礼小学校PTAの活動内容 『長野県飯綱町立 牟礼小学校PTA』</p> <p>地域からの働きかけにより、</p> <p>・大型車両の通行が多い道路への路面表示の設置</p> <p>・学校隣接道路に、建設業者による通学路路面表示の設置</p> <p>・横断歩道の整備が難しい通学路に、横断グリーンベルトを設置</p> <p>4.パネルディスカッション</p> <p>「幸せな学校とは」「子ども達が笑顔であるために」「それを実現させるために」</p> <p>コーディネーター：酒井玲子氏</p> <p>パネリスト：伴美沙子氏（教育委員会）：宮島新氏（城山小学校6年担任）</p> <p>：黒岩潤也氏（牟礼小学校PTA会長）</p>		
感 想	<p>地域との連携でのキモは『協力と楽しさ』であるとおっしゃっていました。地域の学校 団体 保護者が協力して地域全体で子どもを育てることの大前提は、『やっている大人がみんな笑顔で楽しいこと！大人が笑顔でつながると子どもたちも笑顔になる！楽しさが人をつなぎ、地域を元気にする！子どもたちとは本気で関わっていくことが大切である』とおっしゃっていました。</p> <p>褒めることだけではなく、叱られたときや注意された時などあらゆる面からも、いつでも全力で子どもと向き合い心に寄り添うことが何よりも大切なことではないかと思いました。</p> <p>本気で関わることで大人を信頼し、子どもたちの心の安定が図られていくことで、自分から何かを取り組んでみようという意欲ややる気を引き出せると今回の大会で再確認し、これからの自分の子育てや、PTAでの子ども達との関わりで活かしていきたいと思いました。そして子どものそばにいる大人は、常に子どもと共に生きて笑顔を忘れず、一人の人間を作っているという意識を持ちながら関わる必要があると感じました。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	足利市小中学校PTA連合会	役職	副会長
氏 名	S. G		
分 科 会 名	第1分科会 地域連携		
テ ー マ	地域の特性を生かし、学校・保護者・地域が一体となって 子どもたちを育む持続可能な学びの場を		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが理想とする未来の学校について大人がどう関わっていくか ・コミュニティスクールと連携し、地域で子どもを育てる持続可能な活動について 		
感 想	<p>地域とPTA（学校）の連携について、様々な意見交換が出来ました。特に地元長野市であり会場でもあった城山小学校では、高学年児童が地域の中でできること、地域の良いところに気づき、更に良くするために何が出来るかを提案し、それに対して我々参加者がその良さを認めたり、アドバイスをしたり、改善策を提案するなど、大変有意義な時間となった。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	鹿沼市PTA連絡協議会	役 職	監事
氏 名	N. S		
分 科 会 名	第2分科会・家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	「結」明るい未来のために親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・食育とは、「心が育つ」「いのちが育つ」「生きる力」 ・必須アミノ酸、たんぱく質など栄養の必要性 ・日本の食品添加物等の現状 海外では認可されていない添加物もたくさんある。 ・10代のうつ病増加 食事も関係している。 ・米とみそ汁は最強食材 放射能も除去可能。広島や長崎では今でも研究している。 食は古い医学から学ぶことも多く、歴史を知ること大切。 		
感 想	<p>現代の食事は、手軽でおいしいものが多い。しかし、添加物も多く、中毒性もみられるため、徐々に健康被害につながっていく。医療がひっ迫していく中、慢性疾患は食事や運動でほぼ改善されるため、今回の講演会を聴いて、日々の食を見直すきっかけになった。日本食はすばらしく、ご飯とみそ汁を基本とした、野菜中心の食事を心がけていきたい。家庭からできることをして、明るい未来につなげていきたい。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	高根沢町PTA連絡協議会	役 職	東小学校PTA会長
氏 名	S. A		
分 科 会 名	第2分科会・家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	自作弁当の日の取り組みで学校全体の食育を推進		
内 容	<p>【概要】 須坂市立東中学校の取り組みで、授業中にこだわり弁当の内容を生徒自身で計画し、家庭学習として自作のお弁当を持参する試みを実施。作製に当たりルールは2つ。①6つの基礎食品群を全て入れる②その量にこだわる。このルールに基づき年2回自作弁当を作製する。 （※3年間で計6回）</p> <p>【成果】 毎日当たり前のように食事をしていたが、準備してくれる親に対し有難みを感じた。作製に当たり、旬の野菜を調べたり地元で採れる野菜を調べたり知識が幅広く広がった。献立の立案や調理だけでなく、事前の買い出しや汚れ物の片付けと調理前後の大変さに初めて気付いた。料理を手伝うようになり親との会話が増えた。</p>		
感 想	<p>恥ずかしながら、今まで私は『食育』にあまり興味がありませんでした。その為、この機会に一度だけ聞いてみようかな...が第2分科会に足を運んだきっかけでした。結果として、私は『食育』に対する概念を大きく変えることになりました。今回の報告の中で胸に響くキーワードはたくさんありましたが、その中でも中学生の発言で、（自作弁当の取り組みを通し『ごちそうさま』から『ありがとう』に気持ちが変わりました）というコメントが一番胸に刺さりました。『食育』とは、単に健やかに生きる為に必要な知識を養うだけでなく、自分自信を見つめ直し、相手を思いやり、そして命ある物全てに感謝し、家族の繋がりをより強く結びつける『結』となることを実感しました。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	那須塩原市PTA連絡協議会	役 職	PTA会長
氏 名	W. O		
分 科 会 名	第2分科会 家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	「結」明るい未来のために親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子供の問題行動の背景には、家庭環境や教育のあり方が深く関係している。 ▪ 保護者が判断するのではなく、子供が自ら選択・判断できる環境づくりが重要。 ▪ 子供が困っていると言える家庭環境を整えることが、意欲の向上につながる。 ▪ 不登校やいじめの要因を家庭教育の視点から考察し、支援のあり方を提案。 ▪ 地元の子どもたちによる「子ども歌舞伎」の口上披露 		
感 想	<p>本分科会では、家庭教育の本質に迫る深い議論が展開され、参加者自身の子育てやPTA活動に対する考え方に大きな気づきがあった。</p> <p>特に子供がわがままでいられる家庭こそが健全という視点は、日々の接し方を見直すきっかけとなった。</p> <p>家庭教育は「教える」よりも「支える」姿勢が重要。保護者同士の悩みの共有が、孤立感の軽減につながる。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会 (下野市PTA連絡協議会)	役 職	監事 (祇園小副会長)
氏 名	Y. H		
分 科 会 名	第2分科会 家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	明るい未来のために、親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<p>【講演】田中雅子氏 NPO法人日本食育協会食育指導士</p> <p>【研究発表校】</p> <p>◇栃木市PTA連合会 大類竜也氏</p> <p>「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進 ～とちぎ未来アシストネット事業との連携をととして～</p> <p>◇須坂市立東中学校（長野県） 松峯昌男氏</p> <p>「自作弁当の日の取り組みで学校全体の食育を推進」</p>		
感 想	<p>第一日目、第2分科会に参加して、食育をテーマに話していただきました。</p> <p>みそ汁の大切さ、大会から帰宅して私は顆粒だしをやめて、素材でだしをとっています。最初は味が薄いようなきがしていましたが、なれてくると素材の味を美味しくかんじています。</p> <p>みそ汁を飲むことによって、体内に蓄積された悪いものを、洗い流してくれるということも、だまされててもいいから、そんな簡単なことで体が変わるならば続けていきたいと思った。</p> <p>もう一つは、年間2回行われる地産地消の自作弁当のお話でした。子ども達が色とりどりに、栄養価も考えながら地産地消の素材を使って、お弁当作りする様子がうかがえて、すごいな～と感心しましたし、よい取り組みだと感じました。子どものころからキッチンと食育されていると、強い体で健康になるし、病気知らずになってよいですね！</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会 (那須町PTA連絡協議会)	役職	副会長
氏 名	T. S		
分 科 会 名	第2分科会 家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	「結」明るい未来のために親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<p>【 講 演 】 田中雅子氏 NPO法人日本食育協会食育指導士</p> <p>【研究発表校】</p> <p>◇栃木市PTA連合会 大類竜也氏 「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進 ～とちぎ未来アシストネット事業との連携をとおして～</p> <p>◇須坂市立東中学校（長野県） 松峯昌男氏 「自作弁当の日の取り組みで学校全体の食育を推進」</p>		
感 想	<p>ホール全体で約200名程度の参加者で栃木県からは福田会長をはじめ10名程度が参加しました。分科会は、栃木市PTA連合会・大類竜矢氏の研究発表から始まり、NPO法人長野県食育協会の理事・田中雅子氏の講演、さらに須坂市立東中学校PTAの取組を上高井郡市PTA連合会会長・松峰昌男氏が発表しました。</p> <p>最後に須坂市立東中学校の中学生2名を交えてパネルディスカッションが行われ、生徒が自作弁当を通じて、「いのちのありがたみ」や「親への感謝」を学びましたという発表が印象的でした。</p>		



第 5 7 回日本 P T A 関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県 P T A 連合会 (日光市 P T A 連絡協議会)	役 職	副会長
氏 名	T. A		
分 科 会 名	第 2 分科会 及び 全体会		
テ ー マ	家庭教育（健康・食育）		
内 容	<p>栃木市の研究 P T A の発表</p> <p>長野県の食の繋がりについての発表</p>		
感 想	<p>地域と子どもたちの結びつきのために P T A として担う役割を学ぶことができました。</p> <p>また、今大会では長野県の中学生在がパネリストとして参加し、堂々とした発表や大人との意見交換をする姿が印象的でした。</p> <p>県内での取り組みや地域、学校規模による特色も交えながら楽しくも学び深い時間を過ごせました。</p> <p>最終日の野々村友紀子さんの話は笑い声の中で日々、忙殺される生活の一コマの中で幸せに過ごすヒントを頂きました。</p> <p>ご一緒できた県内の皆様のみならず、他県の P T A の方々とも交流する機会もあり、大変有意義な大会参加となりました。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会事務局	役 職	専務理事
氏 名	Y. T		
分 科 会 名	第2分科会 家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	明るい未来のために、親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<p>1 「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進～とちぎ未来アシストネット事業との連携をととして～</p> <p>本会からの「研究PTA」の委嘱（令和5・6年）による研究成果を栃木市PTA連合会事務局長様に発表いただいた。</p>   <p>2 「自作弁当の日の取組で学校全体の食育を推進」について、須坂市立東中学校の取組を上高井郡市P連会長が発表</p> <p>3 基調講演 NPO法人日本食育協会食育指導士の田中雅子氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 18：1分間に波が押し寄せる数 36：人間の平均体温 72：平常時の1分間の脈拍数 144：平常時の血圧範囲内 288：赤ん坊が母親の胎内にいる日数 		
感 想	<p>2日目全体会において、特別企画「ウェルビーイング・ジュニアサミット」に係る中学生3名が参加してのパネルディスカッションがあった。各校の生徒会役員を務める生徒たちは、各校の特色ある取組や自分の考えを堂々と述べていた。県教育長の参加もあり、PTA連合会・教育委員会・学校がしっかりと連携している様子がうかがえた。</p> <p>ながの大会は、昨年度の川崎大会のテーマを生かし、長野県P連の「ワクワクしながらたくさんの仲間と感動を共有できるPTA活動」を通してという考えが催しの随所に見られ、そして、県全体がよりよい教育環境の充実を目指そうとする姿勢が感じられた。</p> 		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会	役 職	事務局
氏 名	C. M		
分 科 会 名	第2分科会・家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	明るい未来のために、親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<p>【 講演 】田中雅子氏 NPO法人日本食育協会食育指導士</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要とされる「生きる力」 ・「食育」の重要性 ・家庭・学校・地域での「食育」 <p>【研究発表校】</p> <p>◇栃木市PTA連合会 大類竜也氏 「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進 ～とちぎ未来アシストネット事業との連携をとおして～</p> <p>◇須坂市立東中学校（長野県） 松峯昌男氏 「自作弁当の日の取り組みで学校全体の食育を推進」</p>		
感 想	<p>講演では「明るい未来のために、親も子も元気に過ごすための食育～」をテーマに、私たちが毎日の生活の中では特に意識せずに行っていた食事でしたが、これからは健康で元気に過ごしていくために、そして自分や家族の体の状態を知るためにも最も重要であり毎日欠かすことのできない「食育」について、改めて再認識をさせられました。早速、帰宅をしたら友人からいただいた手造りの味噌で野菜がたっくさんのみそ汁を作りたいと思いました。</p> <p>研究発表では栃木市P連の行った地域ボランティアとの協働で役員の負担軽減及びPTA活動の活性化、そして児童生徒が大人たちとの関わりを持つことで自己肯定感が育まれ、地域に対して愛着を持ててという事がとても印象的でした。</p> <p>須坂市立東中学校で実施されている「自作弁当の日の取り組みで学校全体の食育を推進」では実際に弁当作りを体験した中学3年生の生徒、栄養教諭、家庭科教員を交えてパネルディスカッションを行い、感想やそこからの学びなどについて話を聞くことができました。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA教育振興会	役 職	事務局長
氏 名	J. T		
分 科 会 名	第2分科会 家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	明るい未来のために、親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<p>研究発表</p> <p>●大類 竜矢氏（栃木市PTA連合会事務局） 「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進 ～とちぎ未来アシストネット事業の連携をとおして～</p> <p>●須坂市立東中学校 松峯 昌男氏（上高井郡市P連会長） 「自作弁当の日の取り組みで学校全体の食育を推進」</p> <p>講 演</p> <p>田中 雅子氏（NPO法人日本食育協会食育指導士）</p>		
感 想	<p>研究発表では、2名の発表者から地域と連携したPTAの取り組みについて発表があり、「教育行政との連携で学校教育が充実する仕組み」や「3年間のお弁当作りを通して食育を育む活動」を学びました。</p> <p>講演では、「食育」の重要性についてお話を伺うことができました。「"食育"は"食の教育"ではなく"職を育む"こと」という講師の言葉が印象に残りました。「"食"を学校で教育する」ということに違和感を抱いていたので、学校や家庭・社会で"食"を育むことが食育の目的という話は心にすんと落ちました。これからも、家族として社会の一員として"食育"にかかわっていきたいと思います。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会	役 職	顧 問
氏 名	T. A		
分 科 会 名	第2分科会 家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	明るい未来のために、親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	<p>【講演】NPO法人日本食育協会 食育指導士 田中 雅子 氏による</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 必要とされる「生きる力」 ● 「食育」の重要性 ● 家庭・学校・地域での「食育」 <p>【研究発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 栃木市PTA連合会（栃木県） 大類 竜矢氏 「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進 ～とちぎ未来アシストネット事業との連携をととして～ ● 須坂市立東中学校（長野県） 松峯 昌男氏 「自作弁当の日の取り組みで学校全体の食育を推進」 		
感 想	<p>田中氏の講演では、発酵食品の持つ無限の力を学ばせて頂きました。 私自身、発酵食品、特に味噌には多少なりともこだわりを持っており、日々の食事ではほぼ欠かさず頂いているため、非常に興味深く拝聴いたしました。信州味噌を買って帰るつもりが、買えなかったことが悔やまれます。今後は味噌づくりにチャレンジしたいと思います。</p> <p>また、田中氏の言葉の選び方、話し方に非常に引き込まれました。人の健康を願うと、このように語り言葉も穏やかになるのかと聞き入りました。</p> <p>研究発表では、栃木市の大類氏のこれまでの活動や工夫されてきたことがこの分科会にお越しになった方々に響いているものと感じました。</p> <p>須坂市の松峯氏の発表では、お弁当の写真の奥に家族や子どもたちの笑顔が見えたような気がして、ほっこりいたしました。</p> <p>この分科会を通して、日々の健康に感謝するとともに、“医食同源”をあらためて考える機会を頂きました。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木市PTA連合会	役 職	事務局長
氏 名	T. O		
分 科 会 名	第2分科会 家庭教育（健康・食育）		
テ ー マ	「結」明るい未来のために親も子も元気に過ごすための食育		
内 容	分科会発表 「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進 ～とちぎ未来アシストネット事業との連携をとおして～		
感 想	<p>第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会に参加し、栃木市PTA連合会として第2分科会で発表を行いました。大会テーマ「結（ゆい）～笑顔で未来をつくる～」のもと、子どもたちのウェルビーイングを実現するために、家庭・学校・地域がそれぞれの立場で支え合う姿勢の大切さを改めて実感しました。発表では「学校・家庭・地域の協働によるPTA活動の促進」を紹介し、他地域の皆様から貴重なご意見をいただくことで、活動の新たな視点や課題にも気づくことができました。</p> <p>分科会や全体会を通じて、各地域での実践が温かく、かつ様々な工夫に満ちていることに感銘を受けました。今後は、今回の学びを生かし、地域の特性を活かした持続可能でワクワクするPTA活動を推進し、子どもたちの笑顔あふれる未来づくりに貢献してまいりたいと思います。さらに、PTAが地域社会の絆を深める架け橋となるよう、今後も協働の輪を広げていきたいと感じました。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	高根沢町PTA連絡協議会	役 職	
氏 名	S. A		
分 科 会 名	第4分科会 組織・運営		
テ ー マ	PTAも多様性の時代 一人ひとりの違いを結んで新たな道を目指そう！		
内 容	<p>◎講演 「子どもの育ちと学びの未来のためにPTAのこれからを考える」 信州大学 教職支援センター准教授 荒井 英治郎 氏</p> <p>◎研究発表 ①長岡市立青葉台小学校PTA（新潟県） 宮下 あさみ 氏 「親バカ最高。PTAの能力～「学校」×「家庭」×「地域」＝∞（無限）の可能性～」</p> <p>②上田市立第二中学校（長野県） 中澤 創 氏 「ピンチはチャンス！未来に向けて原点回帰」</p> <p>◎グループディスカッション（グループ発表あり） ①「PTAのここがスキ・ここがイヤ」 ②「PTAがもっと良くなるアイデア発表会～無理なく楽しく続けよう～」</p>		
感 想	<p>◎講演より ・教室、児童生徒、PTAの多様性を把握する。そこから新しい当たり前を作っていくためのプロセスを共に創る。そのために、PTAの違和感と向き合い、PTAを学びの場とし、自己犠牲のないチームをつくっていくことが大切と知ることができました。</p> <p>◎発表より ・PTAの力、保護者の力をなくすことはできないので、各専門部をやめ、ボランティアをつのるなど、「持続できる対応」が必要ということに共感しました。楽しく意義のある活動にバランスよく取り組むことが質の向上につながると思いました。</p> <p>◎グループディスカッションより ・「習慣的」とか「予算があるから」とかのやらされる感でなく、「将来子供たちの思い出になるか、それが今のPTAのメンバーでできるのか」という視点を持ち、この活動が必要かどうか言い合えるPTAにしていくことが大切と感じました。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	栃木県PTA連合会 (下野市PTA連絡協議会)	役 職	指名理事
氏 名	N. T		
分 科 会 名	第4分科会 組織・運営		
テ ー マ	PTAも多様性の時代 一人一人の違いを結ぶんで新たな道を目指そう！		
内 容	<p>研究発表</p> <p>長岡市立青葉台小PTA 宮下あさみ 氏 「親ばか最高。PTAの底力 学校・地域 無限の可能性」</p> <p>上田市立第二中学校 中澤 創 氏 「ピンチはチャンス！未来に向けた原点回帰」</p> <p>基調講演</p> <p>信州大学教職支援センター准教授 荒井英治郎 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の組織運営での妨げ ・多様性社会における組織運営 ・持続可能なPTAのあり方 <p>※分散会 少人数でのグループディスカッション</p>		
感 想	<p>研究発表では、それぞれの発表者がPTA活動の無理のない工夫が印象的でした。地域の力を借りて見守りボランティアをしてもらったり、専門部数を減らし内容を精選したり、引継ぎを「いつ、何をするか」一覧表を作成するなど目からうろこでした。</p> <p>基調講演では、PTA活動は「子どもたちのために！」であるが、本当に子どもたちのためになっているか！？ 子どもたちの声を聴くことの大切さを教わりました。</p> <p>また、次の世代（今の子どもたちが親になった時）のことも考えて、活動の大切さを伝えることも大事なことだと教わりました。</p> <p>分散会では、①PTAのここが好き、ここがイヤ ②PTAがもっと良くなるアイデア発表会 この内容を参加者が用紙にアイデアを書き、最後に発表し、とても参考になりました。発表の中で一番印象に残ったのは、役員をやって感謝されるのが嬉しいということでした。</p>		

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会 報告書

協 議 会 名	高根沢町PTA連絡協議会	役 職	
氏 名	K. K		
分 科 会 名	第7分科会・部活動の地域移行		
テ ー マ	学校と地域の「結」 ～理想的な部活動の地域移行の実現に向けて～		
内 容	<p>13:00 開会</p> <p>13:15 研究発表①:昭和町立押原中学校PTA ダンス部、なぎなた部</p> <p>13:30 研究発表②:長野日大ラボ (私立中学校の事例を中心)</p> <p>14:00 基調講演①:出口 哲郎 氏 (県の指導者登録について)</p> <p>14:30 基調講演②:代田 昭久 氏 (子供・民間発のクラブ発足)</p> <p>14:50 休憩</p> <p>15:00 グループ協議① 自己紹介と部活動の現状 (課題確認)</p> <p>15:50 休憩</p> <p>16:00 グループ協議② PTAとしてできること (可能性の協議)</p> <p>16:40 まとめ、総評、閉会</p>		
感 想	<p>本分科会におけるグループ協議では、次の事項を協議した。</p> <p>①地域移行への課題確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を学校からクラブ活動場所まで行く移動手段の確保 ・クラブ会費等の経済的負担、等 <p>②PTAとしてできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動ではなくPTAとしての活動なら任せられる (PTA保険適用) ・指導者をPTA関係者から募る、等 <p>代田氏の講演から、競技性の低い、楽しむことを主目的とするクラブは、比較的地域移行しやすいことがわかった。既存の部活動から入部する部活を選択するのではなく、①子供が望む新たなクラブ (例えば昆虫採集クラブ) を発足する、②地域に根ざす企業が中学生たちの成長を支えられるようコラボしたクラブ (例えば歯科医院がマウスピースを作成するクラブ) を発足して楽しい活動を展開していく、といった新しい可能性を感じられる。</p> <p>しかし、中体連組織で大会を運営している競技性志向の強い部活動については、受け皿となる団体の充実、指導者の確保、経済的負担、送迎等の移動インフラ整備等、大きな課題が残ると思われる。</p>		

第2分科会の発表

栃木市PTA連合会

研修主題

「学校・家庭・地域」と協働・連携したPTA活動の促進
～とちぎ未来アシストネット事業との連携をとおして～



本研究は、「学校・家庭・地域」の協働・連携によるPTA活動の促進を目的とし、とちぎ未来アシストネット事業（地域学校協働活動）との連携を通じて、PTAの活性化と教育環境の向上を図ったものである。

研究では、市内小中学校のPTA会長や校長を対象にアンケートを実施し、その結果を踏まえて、①アシストネット事業の認知度向上、②保護者と地域住民ボランティアとの連携強化、③PTA組織や行事の在り方の見直し、の三点を重点的に取り組み、保護者負担の軽減や学校との連携強化などを目指した。

具体的な取組としては、広報紙の作成や説明会の開催、ボランティア交流会や学校運営協議会での協議、さらにはPTA行事への地域参加を推進し、その効果を検証した。

その結果、地域ボランティアとの協働により、役員の負担軽減とPTA活動の活性化が実現した。保護者は学校や地域とのつながりを深め、授業理解や子育て相談の機会を得ることができた。学校にとっても、地域の応援団の存在を実感することで教員の負担軽減や教育環境の充実につながった。さらに児童生徒にとっては、多様な大人との関わりを通じて自己肯定感が育まれ、地域への愛着を深める効果が確認された。

今後の課題として、「PTA行事等の確実な引継ぎの仕組みづくり」「PTA・学校・地域が対等な立場で協議できる関係づくり」などが明らかとなった。

以上、長野県PTA連合会ホームページより

研究紀要は、栃木県PTA連合会ホームページに掲載しております。

以下のURLよりご覧いただけます。

https://www.tochigi-pta.gr.jp/page_20240228054736/page_20240708235105

◆◆◆◆◆ ながの大会 写真 ◆◆◆◆◆



全体会・第2分科会会場
ホクト文化ホール



主催者代表挨拶



長野県のゆるキャラ
アルクマ



本県の発表（栃木市PTA連合会）



長野県発表 自作弁当の日の取組に係る掲示物



全体会でのジュニアサミットに係る
パネルディスカッション



第2分科会での食育に係る
パネルディスカッション



本県からの参加者



閉会宣言

栃木県PTA連合会（略称 県P連）

〒320-0066

宇都宮市駒生 1 丁目 1－6（栃木県教育会館内）

電話 028-622-2833

FAX 028-622-2834

Mail : info@tochigi-pta.gr.jp



情報発信は主に、
このHPにて行い
ますので、ぜひ
「お気に入り」へ
の登録をお願いい
たします。